



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (22) 7207 番

93.12.15 No. 3912

構内外注化提案は 検修職場の解体攻撃だ!

10.22 JR東日本が提案

JR東日本社は、十月二二日、「構内入換業務等の部外委託について」と称して、構内作業の全面的な外注化提案を行なってきた。提案の趣旨では、

動力車運転免許を所持する社員に、より相応しい出向先を創出するとともに効率的な作業体制を構築すること

ことを目的としてうたっているが、実際の中身は、車両検修場を実質的に解体するに等しい全面外注提案である。提案で「外注対象」とされているのは、

- (1) 駅との入出区を含む構内運転業務。
- (2) 出区点検。
- (3) 誘導。
- (4) 車両の開放・連結作業
- (5) 仕業検査業務。
- (6) その他、構内に係わる指定業務。

であり、実施時期は、来年四月一日以降とされている。具体的には、各支社毎に計画が策定されることになるが、千葉支社の動向は今のところ不明である。

構内作業全ての

外注化を画策

しかしこれは、外勤、仕業検査、誘導等、構内作業に係わる業務全ての切り捨て・外注化に他ならない。まさに新たな十万人首切り攻撃の検修版だ。

JRは、発足以降七年がたつ今も、車両検修に携わる技術者の養成について一切を放棄してきた。それどころか、今後の車両検修の在り方についての基本的な考え方を明らかにされていない。この間導入されてきた「新検査方式」も、結局はほとんど失敗に終わり、それなりに稼働しているのはパンすり板の自動計測装置だけである。

現在は、国鉄時代に養成された技術力で何とかかかいつないでいるが、あと数年もたてば、車両の修繕すらできない会社になってしまいかねないのだ。こうした状況の上に、今度は全面外注提案である。JRはまさに鉄道会社としての基本的な機能すら自ら放棄したのだ。

「高令者によりさわしい出向先などうぞだの。」

業務の委託先は、「既に車両清掃等を委託している会社」とされており、千葉では、「千葉車両整備」になるものと考えられる。仮に外注が行なわれた場合、現在構内作業を行なっている要員数は、徹底的に削減され、かつ車両清掃業務なども融合された作業になることは明らかで

ある。外注先では、手待時間など全く無しに、構内を駆け回らなければならないようなささまじい労働強化がのしかかることになる。

つまり、「高令者により相応しい出向先を創出する」などと言っているが、とても五五歳を

すぎた高令者が働くことのできるような職場になるなど考えられない。もしこんなことを認めたら、JRからは「五五歳出向」という名で首を切られ、出向先では過労死で殺されてしまうことになりかねない。構内作業の外注化提案を許すな!

年度末合理化 攻撃提案 される。

十二月十三日、「年度末諸施策」と称して、また新たな合理化提案が提案された。提案の概要は次のとおりである。なお、この合理化に伴う要員関係は、二三日提案の予定。

- 【運輸関係】
- (1) 幕張電車区 パン自動計測機の導入に伴う構内作業の見直し。
 - (2) 習志野電車区 継電化に伴う構内作業体制の見直し。
 - (3) 習志野電車区 パン自動計測機の導入。(三月二〇日頃工事完成)

- 【営業関係】
- (1) 出改札体制見直し(銚子、南船橋、鹿島神宮)
 - (2) 特別改札体制見直し(湖北)
 - (3) 波動体制見直し(君津)
 - (4) ホーム体制見直し(千葉駅)
 - (5) 津田沼喫茶エル閉店
- 【施設関係】
- * 二級線の線路検査周期見直し等。
 - 【電気関係】
 - * 検査業務の機械化、派
 - 出の統廃合等。

新たな合理化提案を許すな!